

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

(平成 27 年 2 月 13 日)

【二二】陳成子 簡公を弑す。孔子 沐浴して朝し、哀公に告げて曰く、陳恒 其の君を弑せり。請う之を討ぜんと。公曰く、夫の三子に告げよと。孔子曰く、吾 大夫の後に従うを以て、敢て告げずんばあらざるなり。君 夫の三子者に告げよと曰えりと。三子に之きて告ぐ。可かず。孔子曰く、吾 大夫の後に従うを以て、敢て告げずんばあらざるなりと。

陳成子は齊の大夫で、簡公は君主です。孔子は数えて 72 歳頃だと思いましたが、高齢のときです。

陳成子が簡公を殺した。孔子はこの話を聞いて、齋戒沐浴をして朝廷に出て、哀公に隣国の魯に対して大義名分からいけば、きちんと討伐の兵を挙げなければいけないとアドバイスをした。それに対して哀公は、三子（大きな三つの派閥、孟孫・季孫・叔孫）に言ってくればよいと答えた。孔子はがっかりして、重大な話だから自分で言わないといけないのに、私に言えというのは何なんだろうと思いつつ、命令だから三家に告げて回った。この三家も、哀公を殺して取って代わりかねない状況にありましたから、隣国で駄目君主が天からの使命を放棄したため討ち果たされるのは当然であり、また自分が天子に取って代わろうと、それぞれが腹の中に思っているの、孔子の言うことを聞くわけがないという話です。

孔子は自分の力のなさに、がっかりしたと考えればよいと思います。

現代にあわせてみると、家臣が主君に取って代わる。その陪臣が、また殺され取って代わられる。戦国時代の始まりのような状況で考えてみると、日本でもあった話です。

現在は、よくぞ安倍さんが回りを押さえ込んでいます。安倍さんの揚げ足をとり、自分が取って代わろうと透けて見える時代ですけれども、もう取って代わろうとしている人達力は削がれていますので、安倍さんの時代は当分続くかと思えます。安倍さんは、アベノミクスが失敗したと明確になったときに、どうなるか。

民間に給料を上げろと盛んに言って多少上がったけれども、実質的な賃金は下がりっぱなし。橋本龍太郎さんの時から、実質賃金は下がりっぱなしで、もうこれ以上は上がらない。物価が上がって、実質賃金が下がってどうにもならない。税金だけが、どんどん上がる。税金 10 パーセントを上げたところで、たぶん命取りになると思います。「税金 10 パーセントは延長しません」と言ったことが、あの人の命取りになると思っています。逆にいえばそれを抑えて、10 パーセント上げた時に、手ぐすね引いて待つ政治家が目白押しだろうと、ここの論語から想像します。